

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 31 (R元. 12. 17発行) 文責 校長 福田雅也

二度とない人生だから

私は「二度とない人生の会」という会の会員です。

名前だけ聞くとどんな会だろうと思われるでしょうが、名前ほど大げさな会ではなく、年に一回、旅行と懇親会を交互に楽しみ、旧交を温めている会です。今年は旅行の年で、今週末に長崎県の五島旅行を楽しむことになっています。私が教頭時代の職員が、当時の校長先生を中心に作った会で、会の名前はその校長先生が卒業式の式辞で引用された同じ名前の詩が由来です。

二度とない人生だから
できるだけのことをしよう
心豊かに接していこう

まず一番身近な者たちに
負しいけれど

これはその詩の一節です。作者は熊本県出身の詩人、坂村真民です。真民は明治42年生まれで、明治、大正、昭和、平成とほぼ一世紀の人生を生き、平成18年に愛媛県砥部町でこの世を去りました。砥部町には記念館も作られています。真民は多くの詩を執筆していますが、その詩は、弱者に寄り添い、癒しと勇気を与えるものが多く、「人はどう生きるべきか」を問いかけるような作品もあります。私は、当時の校長先生の式辞をきっかけにその詩の世界を知ることができました。

真民は「二度とない人生をあなたはどう生きますか？」と問われ、次のように答えたそうです。

よく分からないが、ただ一つ言えることがある。それは、他の人のために何かをすることだ。

このような真民の思いを、巣立ちゆく子どもたちに伝えようとした校長先生のお気持ちと、日頃の校長先生の姿に、心から共感した職員が集まった会が「二度とない人生の会」なのです。

真民は、次のような詩も残しています。

大切なのは かつてでもなく これからでもない
一呼吸 一呼吸の 今である

「今」という題名で、真民のたくさんある詩の中で、私が特に気に入っている詩です。とても短い文章の中に、強い説得力のあるメッセージが込められています。最近あるところで目にし、心に残った「明日の自分は、今日の自分が創る」という言葉ともつながる、芯のある作品です。

人生は出会いの繰り返しだと感じます。私の目指すべき姿と真民の世界をお示していただいた、当時の校長先生との出会いには心から感謝をするばかりです。